



## 大学院生募集中

### 神経可塑性の臨床応用

現在、脳神経疾患（うつ病、統合失調症、薬物依存、癲癇、脳卒中等）の診断治療の現場は砂漠のような状態です。それは分子細胞レベルでの疾患の研究が進んでいないからです。一方、シナプス機能そのものの基礎研究はかなり成熟してきています。薬剤はすべて標的分子が存在します。我々は、脳神経疾患における基礎研究の論理的根拠がある革新的な診断治療法の開発を目指しています

#### AMPA 受容体標識 PET Probe の開発

我々は AMPA 受容体に特異的に結合する新規化合物を発見し、PET プローブの開発に成功しました。その技術を用いて「てんかんの新規診断治療法の開発」や「精神疾患のシナプス機能分子を用いた新たな分類」を目指して研究を進めています。



教授：高橋琢哉



#### リハビリテーション 効果促進薬の開発

富士フイルムグループの富山化学工業株式会社との共同研究により、脳卒中後のリハビリテーション効果を大きく促進する新薬の候補化合物を特定し、治験を開始しました。

Science 360, 50–57 (2018) 6

April 2018

#### 主な研究手法

パッチクランプ、動物の PET 撮像、組織染色、ウェスタンブロッティング、LC/MS、マイクロダイアライシスなど

問い合わせ先：seiri2@yokohama-cu.ac.jp

HP <http://neurosci.med.yokohama-cu.ac.jp/>